

CLIPPEDIMAGE= JP410189248A  
PAT-NO: JP410189248A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10189248 A  
TITLE: ORGANIC ELECTROLUMINESCENT ELEMENT

PUBN-DATE: July 21, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

NAKATSUKA, MASAKATSU  
KITAMOTO, NORIKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

mitsui chem inc

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP09291150

APPL-DATE: October 23, 1997

INT-CL\_(IPC): H05B033/14; C09K011/06

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an organic electroluminescent element with high luminescent efficiency and high luminance by interposing a layer containing a fluoranthene derivative between a pair of electrodes.

SOLUTION: An organic electroluminescent element interposing at least one layer containing at least one kind of fluoranthene derivatives represented by the formula (wherein X1-X10 show a hydrogen atom, a halogen atom, a straight chain, branched, or cyclic alkyl group, alkoxy group, a substituting or non-substituting aryl group, at least one of X1-X10 is a straight chain, branched, or cyclic alkyl group, alkoxy group, or a substituting or non-substituting aryl group, and an adjacent alkyl group and aryl group of X7-X10 may be bonded and form a ring.) for example, 7-methyl fluoranthene as a

luminescent layer is manufactured. The organic electroluminescent element with high luminance usable as a panel type light source of a back light or the like is obtained.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-189248

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月21日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

H 0 5 B 33/14

C 0 9 K 11/06

識別記号

F I

H 0 5 B 33/14

C 0 9 K 11/06

Z

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号

特願平9-291150

(22) 出願日

平成9年(1997)10月23日

(31) 優先権主張番号

特願平8-295043

(32) 優先日

平8(1996)11月7日

(33) 優先権主張国

日本 (J P)

(71) 出願人 000005887

三井化学株式会社

東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

(72) 発明者

中塚 正勝

神奈川県横浜市栄区笠間町1190番地 三井  
化学株式会社内

(72) 発明者

北本 典子

神奈川県横浜市栄区笠間町1190番地 三井  
化学株式会社内

(54) 【発明の名称】 有機電界発光素子

(57) 【要約】

【解決手段】 一对の電極間に、少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を少なくとも1種含有する層を少なくとも一層挟持してなる有機電界発光素子。

【効果】 発光輝度が優れた有機電界発光素子を提供する。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 一对の電極間に、少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を少なくとも1種含有する層を少なくとも一層挟持してなる有機電界発光素子。

【請求項2】 少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を含有する層が、発光層である請求項1記載の有機電界発光素子。

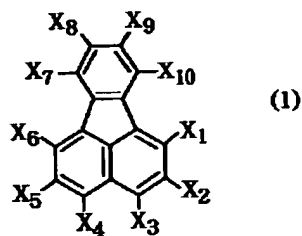
【請求項3】 少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を含有する層に、さらに、発光性有機金属錯体を含有する請求項1または2記載の有機電界発光素子。

【請求項4】 一对の電極間に、さらに、正孔注入輸送層を有する請求項1～3のいずれかに記載の有機電界発光素子。

【請求項5】 一对の電極間に、さらに、電子注入輸送層を有する請求項1～4のいずれかに記載の有機電界発光素子。

【請求項6】 少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体が一般式(1)(化1)で表される化合物である請求項1～5のいずれかに記載の有機電界発光素子。

## 【化1】



〔式中、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>は水素原子、ハロゲン原子、直鎖、分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状のアルコキシ基、あるいは置換または未置換のアリール基を表し(但し、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>の内少なくとも1個は直鎖、分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状のアルコキシ基、あるいは置換または未置換のアリール基を表す)、さらに、X<sub>7</sub>～X<sub>10</sub>の隣接するアルキル基とアリール基は互いに結合して、環を形成していてもよい〕

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、有機電界発光素子に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、無機電界発光素子は、例えば、バックライトなどのパネル型光源として使用されてきた

である。最近になり、発光材料に有機材料を用いた有機電界発光素子(有機エレクトロルミネッセンス素子:有機EL素子)が開発された〔Appl. Phys. Lett., 51、913 (1987)〕。有機電界発光素子は、蛍光性有機化合物を含む薄膜を、陽極と陰極間に挟持された構造を有し、該薄膜に電子および正孔(ホール)を注入して、再結合させることにより励起子(エキシトン)を生成させ、この励起子が失活する際に放出される光を利用して発光する素子である。有機電界発光素子は、数V～数十V程度の直流の低電圧で、発光が可能であり、また蛍光性有機化合物の種類を選択することにより、種々の色(例えば、赤色、青色、緑色)の発光が可能である。このような特徴を有する有機電界発光素子は、種々の発光素子、表示素子等への応用が期待されている。しかしながら、一般に、発光輝度が低く、実用上充分ではない。

【0003】発光輝度を向上させる方法として、発光層として、例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムをホスト化合物、クマリン誘導体、ピラン誘導体をゲスト化合物(ドーパント)として用いた有機電界発光素子が提案されている〔J. Appl. Phys., 65、3610 (1989)〕。また、発光層として、例えば、ビス(2-メチルー8-キノリノラート)(4-フェニルフェノラート)アルミニウムをホスト化合物、アクリドン誘導体(例えば、N-メチルー2-メトキシアクリドン)をゲスト化合物として用いた有機電界発光素子が提案されている(特開平8-67873号公報)。しかしながら、これらの発光素子も十分な発光輝度を有しているとはいえない。現在では、一層高輝度に発光する有機電界発光素子が望まれている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明の課題は、発光効率に優れ、高輝度に発光する有機電界発光素子を提供することである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、有機電界発光素子に関して鋭意検討した結果、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、

①一对の電極間に、少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を少なくとも1種含有する層を少なくとも一層挟持してなる有機電界発光素子、

②少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を含有する層が、発光層である①記載の有機電界発光素子、

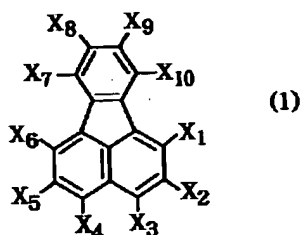
③少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を含有する層に、さらに、発光性有機金属錯体を含有する前記①または②記載の有機電界発光素子、

3

記①～③のいずれかに記載の有機電界発光素子、  
 ⑤一对の電極間に、さらに、電子注入輸送層を有する前  
 記①～④のいずれかに記載の有機電界発光素子、  
 ⑥少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはア  
 リール基を置換基として有するフルオランテン誘導体が  
 一般式(1)(化2)で表される化合物である前記①～  
 ⑤のいずれかに記載の有機電界発光素子、に関するもの  
 である。

【0006】

【化2】



〔式中、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>は水素原子、ハロゲン原子、直鎖、  
 分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状の  
 アルコキシ基、あるいは置換または未置換のアリール基  
 を表し(但し、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>の内少なくとも1個は直鎖、  
 分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状の  
 アルコキシ基、あるいは置換または未置換のアリール基  
 を表す)、さらに、X<sub>7</sub>～X<sub>10</sub>の隣接するアルキル基と  
 アリール基は互いに結合して、環を形成していてもよ  
 い〕

【0007】

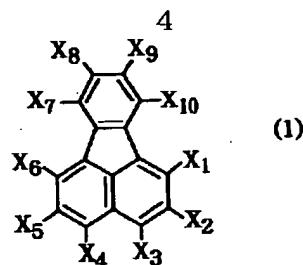
【発明の実施の形態】以下、本発明に関して詳細に説明  
 する。本発明の有機電界発光素子は、一对の電極間に、  
 少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリ  
 ール基を置換基として有するフルオランテン誘導体を少  
 なくとも1種含有する層を少なくとも一層挟持してなる  
 ものである。

【0008】本発明に係る少なくとも1個のアルキル  
 基、アルコキシ基またはアリール基を置換基として有す  
 るフルオランテン誘導体(以下、本発明に係る化合物A  
 と略記する)は、フルオランテン骨格に、置換基として  
 少なくとも1個のアルキル基、アルコキシ基またはアリ  
 ール基を有する化合物であり、好ましくは、一般式

(1)(化3)で表される化合物である。より好ましく  
 は、一般式(1)で表される化合物において、X<sub>1</sub>～X  
<sub>10</sub>の内1～10個がアルキル基、アルコキシ基またはア  
 リール基である化合物であり、より好ましくは、1～6  
 個がアルキル基、アルコキシ基またはアリール基である  
 化合物であり、さらに好ましくは、1～5個がアルキル  
 基、アルコキシ基またはアリール基である化合物であ  
 る。

【0009】

【化3】



〔式中、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>は水素原子、ハロゲン原子、直鎖、  
 分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状の  
 アルコキシ基、あるいは置換または未置換のアリール基  
 を表し(但し、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>の内少なくとも1個は直鎖、  
 分岐または環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状の  
 アルコキシ基、あるいは置換または未置換のアリール基  
 を表す)、さらに、X<sub>7</sub>～X<sub>10</sub>の隣接するアルキル基と  
 アリール基は互いに結合して、環を形成していてもよ  
 い〕

【0010】一般式(1)で表される化合物において、  
 X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>は水素原子、ハロゲン原子、直鎖、分岐また  
 は環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状のアルコキ  
 シ基、あるいは置換または未置換のアリール基を表す。  
 但し、X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>の内少なくとも1個は直鎖、分岐また  
 は環状のアルキル基、直鎖、分岐または環状のアルコキ  
 シ基、あるいは置換または未置換のアリール基を表す。  
 尚、アリール基とは、例えば、フェニル基、ナフチル基  
 などの炭素環式芳香族基、例えば、フリル基、チエニル  
 基、ピリジル基などの複素環式芳香族基を表す。

【0011】X<sub>1</sub>～X<sub>10</sub>は、好ましくは、水素原子、ハ  
 ロゲン原子(例えば、フッ素原子、塩素原子、臭素原  
 子)、炭素数1～16の直鎖、分岐または環状のアルキ  
 ル基(例えば、メチル基、エチル基、n-プロピル基、  
 イソプロピル基、n-ブチル基、イソブチル基、sec-  
 ブチル基、tert-ブチル基、n-ペンチル基、イソペン  
 チル基、ネオペンチル基、tert-ペンチル基、シクロペ  
 ンチル基、n-ヘキシル基、2-エチルブチル基、3,  
 3-ジメチルブチル基、シクロヘキシル基、n-ヘプチ  
 ル基、シクロヘキシルメチル基、n-オクチル基、tert  
 -オクチル基、2-エチルヘキシル基、n-ノニル基、  
 n-デシル基、n-ドデシル基、n-テトラデシル基、  
 n-ヘキサデシル基など)、炭素数1～16の直鎖、分  
 岐または環状のアルコキシ基(例えば、メトキシ基、エ  
 トキシ基、n-プロポキシ基、イソプロポキシ基、n-  
 ブトキシ基、イソブトキシ基、sec-ブトキシ基、n-  
 ペンチルオキシ基、ネオペンチルオキシ基、シクロペ  
 ンチルオキシ基、n-ヘキシルオキシ基、2-エチルブ  
 トキシ基、3, 3-ジメチルブチルオキシ基、シクロヘキ  
 シルオキシ基、n-ヘプチルオキシ基、n-オクチルオ  
 キシ基、2-エチルヘキシルオキシ基、n-ノニルオキ  
 シ基、n-デシルオキシ基、n-ドデシルオキシ基、n  
 -テトラデシルオキシ基、n-ヘキサデシルオキシ基な

【0012】あるいは炭素数4～16の置換または未置換のアリール基(例えば、フェニル基、2-メチルフェニル基、3-メチルフェニル基、4-メチルフェニル基、4-エチルフェニル基、4-n-プロピルフェニル基、4-イソプロピルフェニル基、4-n-ブチルフェニル基、4-tert-ブチルフェニル基、4-イソペンチルフェニル基、4-tert-ペンチルフェニル基、4-n-ヘキシルフェニル基、4-シクロヘキシルフェニル基、4-n-オクチルフェニル基、4-n-デシルフェニル基、2, 3-ジメチルフェニル基、2, 4-ジメチルフェニル基、2, 5-ジメチルフェニル基、3, 4-ジメチルフェニル基、5-インダニル基、1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-5-ナフチル基、1, 2, 3, 4-テトラヒドロ-6-ナフチル基、2-メトキシフェニル基、3-メトキシフェニル基、4-メトキシフェニル基、3-エトキシフェニル基、4-エトキシフェニル基、4-n-プロポキシフェニル基、4-イソプロポキシフェニル基、4-n-ブトキシフェニル基、4-n-ペンチルオキシフェニル基、4-n-ヘキシルオキシフェニル基、4-シクロヘキシルオキシフェニル基、4-n-ヘプタチルオキシフェニル基、4-n-オクチルオキシフェニル基、4-n-デシルオキシフェニル基、2, 3-ジメトキシフェニル基、2, 5-ジメトキシフェニル基、3, 4-ジメトキシフェニル基、2-メトキシ-5-メチルフェニル基、3-メチル-4-メトキシフェニル基、2-フルオロフェニル基、3-フルオロフェニル基、4-フルオロフェニル基、2-クロロフェニル基、3-クロロフェニル基、4-クロロフェニル基、4\*

・例示化合物

番号

1. 1-メチルフルオランテン
2. 1-メチル-3-フェニルフルオランテン
3. 2-メチルフルオランテン
4. 3-メチル-1-フェニルフルオランテン
5. 3-メチル-10-クロロフルオランテン
6. 3-エチルフルオランテン
7. 3-シクロヘキシルフルオランテン
8. 7-メチルフルオランテン
9. 7-n-ブチルフルオランテン
10. 7-メチル-8, 9, 10-トリフェニルフルオランテン
11. 7-エチル-8, 9, 10-トリフェニルフルオランテン
12. 8-メチルフルオランテン
13. 8-エチルフルオランテン
14. 1, 3-ジメチルフルオランテン
15. 2, 3-ジメチルフルオランテン
16. 2, 3-ジメチル-1-フェニルフルオランテン
17. 2, 4-ジメチルフルオランテン
18. 2, 5-ジ-tert-ブチルフルオランテン
19. 3, 4-ジメチルフルオランテン

\*-プロモフェニル基、4-トリフルオロメチルフェニル基、3, 4-ジクロロフェニル基、2-メチル-4-クロロフェニル基、2-クロロ-4-メチルフェニル基、3-クロロ-4-メチルフェニル基、2-クロロ-4-メトキシフェニル基、4-フェニルフェニル基、3-フェニルフェニル基、4-(4'-メチルフェニル)フェニル基、4-(4'-メトキシフェニル)フェニル基、1-ナフチル基、2-ナフチル基、4-エトキシ-1-ナフチル基、6-メトキシ-2-ナフチル基、7-エトキシ-2-ナフチル基、2-フリル基、2-チエニル基、3-チエニル基、2-ピリジル基、3-ピリジル基、4-ピリジル基など)であり、より好ましくは、水素原子、フッ素原子、塩素原子、炭素数1～10のアルキル基、炭素数1～10のアルコキシ基または炭素数6～12のアリール基であり、さらに好ましくは、水素原子、フッ素原子、塩素原子、炭素数1～6のアルキル基、炭素数1～6のアルコキシ基または炭素数6～10の炭素環式芳香族基である。

【0013】さらに、X<sub>7</sub>～X<sub>10</sub>の隣接するアルキル基とアリール基は互いに結合して、環を形成していてもよく、例えば、5～7員環を形成していてもよく、例えば、X<sub>8</sub>のアルキル基とX<sub>9</sub>のアリール基が互いに結合して、置換している炭素原子と共に、例えば、インデン環を形成していてもよい。

【0014】本発明に係る化合物Aの具体例としては、例えば、以下の化合物を挙げることができるが、本発明はこれらに限定されるものではない。

7

- 21. 7, 8-ジメチルフルオランテン
- 22. 7, 8-ジ-sec-ブチルフルオランテン
- 23. 7, 8-ジ-n-ヘキシルフルオランテン

【0015】

- 24. 7, 10-ジメチルフルオランテン
- 25. 7, 10-ジエチルフルオランテン
- 26. 7, 10-ジメチル-8-フェニルフルオランテン
- 27. 7, 10-ジメチル-8-(4'-メチルフェニル)フルオランテン
- 28. 7, 10-ジメチル-8-(4'-メトキシフェニル)フルオラン  
ン
- 29. 7, 10-ジメチル-8, 9-ジフェニルフルオランテン
- 30. 7, 10-ジメチル-8-(4'-メチルフェニル)-9-フェニル  
フルオランテン
- 31. 7, 10-ジエチル-8-フェニルフルオランテン
- 32. 7, 10-ジエチル-8-(2'-メチルフェニル)フルオランテン
- 33. 7, 10-ジエチル-8-(1'-ナフチル)フルオランテン
- 34. 7, 10-ジエチル-8-(4'-エチルフェニル)-9-フェニル  
フルオランテン
- 35. 7, 10-ジエチル-8-(4'-フェニルフェニル)-9-フェニ  
ルフルオランテン
- 36. 7, 10-ジエチル-8-(2'-ナフチル)-9-フェニルフルオ  
ランテン
- 37. 7, 10-ジ-n-プロピル-8-フェニルフルオランテン
- 38. 7, 10-ジ-n-プロピル-8-(3'-メチルフェニル)フルオ  
ランテン
- 39. 7, 10-ジ-n-プロピル-8-(1'-ナフチル)フルオランテ  
ン
- 40. 7, 10-ジ-n-プロピル-8, 9-ジフェニルフルオランテン
- 41. 7, 10-ジ-n-プロピル-8-(4'-エチルフェニル)-9-  
フェニルフルオランテン
- 42. 7, 10-ジイソプロピル-8, 9-ジフェニルフルオランテン
- 43. 7, 10-ジ-n-ブチル-8, 9-ジフェニルフルオランテン
- 44. 7, 10-ジ-n-ペンチル-8, 9-ジフェニルフルオランテン
- 45. 7, 10-ジ-n-ヘキシル-8-(4'-フェニルフェニル)-9-  
フェニルフルオランテン
- 46. 8, 9-ジメチルフルオランテン
- 47. 1, 2, 3-トリメチルフルオランテン
- 48. 1, 6, 7, 10-テトラメチルフルオランテン
- 49. 1, 6-ジメチル-7, 10-ジエチルフルオランテン
- 50. 1, 6, 7, 8, 9, 10-ヘキサメチルフルオランテン

【0016】

- 51. 1-メトキシフルオランテン
- 52. 2-メトキシフルオランテン
- 53. 3-メトキシフルオランテン
- 54. 3-エトキシフルオランテン
- 55. 3-n-ブトキシフルオランテン
- 56. 3-n-ドデシルオキシフルオランテン
- 57. 7-メトキシフルオランテン
- 58. 8-メトキシフルオランテン

9

- 60. 8-n-ヘキシルオキシフルオランテン
- 61. 1-メチル-3-メトキシフルオランテン
- 62. 2-メチル-4-メトキシフルオランテン
- 63. 8-クロロ-9-メトキシフルオランテン
- 64. 8-クロロ-9-エトキシフルオランテン
- 65. 9-tert-ブチル-3-メトキシフルオランテン
- 66. 3, 9-ジメトキシフルオランテン
- 67. 3, 9-ジエトキシフルオランテン
- 68. 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10-オクタフルオロ-1, 6-ジメ  
トキシフルオランテン
- 69. 1, 4, 8-トリメトキシフルオランテン
- 70. 2, 4, 8-トリメトキシフルオランテン

【0017】

- 71. 2-フェニルフルオランテン
- 72. 3-フェニルフルオランテン
- 73. 7-フェニルフルオランテン
- 74. 7-(4'-エトキシフェニル)フルオランテン
- 75. 8-フェニルフルオランテン
- 76. 8-(1'-ナフチル)フルオランテン
- 77. 2, 5-ジ(3'-メチルフェニル)フルオランテン
- 78. 3, 4-ジフェニルフルオランテン
- 79. 7, 9-ジフェニルフルオランテン
- 80. 7, 9-ジ(4'-メチルフェニル)フルオランテン
- 81. 7, 9-ジ(4'-メトキシフェニル)フルオランテン
- 82. 7, 9-ジフェニル-8, 10-ジエチルフルオランテン
- 83. 7, 9-ジフェニル-8, 10-ジメトキシフルオランテン
- 84. 7, 10-ジフェニルフルオランテン
- 85. 7, 10-ジ(4'-エチルフェニル)フルオランテン
- 86. 7, 10-ジ(4'-tert-ブチルフェニル)フルオランテン
- 87. 7, 10-ジ(2'-ナフチル)フルオランテン
- 88. 7, 10-ジフェニル-2-フルオロフルオランテン
- 89. 7, 10-ジフェニル-8-クロロフルオランテン
- 90. 7, 10-ジフェニル-3, 4-ジメチルフルオランテン
- 91. 7, 10-ジフェニル-2-メトキシフルオランテン
- 92. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジメチルフルオランテン
- 93. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ-n-ブチルフルオランテン
- 94. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ-n-ヘキシルオキシフルオラン  
テン
- 95. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジクロロフルオランテン

【0018】

40

- 96. 8, 9-ジフェニルフルオランテン
- 97. 8, 9-ジ(4'-メチルフェニル)フルオランテン
- 98. 8, 9-ジ(4'-クロロフェニル)フルオランテン
- 99. 3, 7, 10-トリフェニルフルオランテン
- 100. 7, 8, 10-トリフェニルフルオランテン
- 101. 7, 8, 10-トリ(3'-メチルフェニル)フルオランテン
- 102. 7, 8, 10-トリ(4'-メチルフェニル)フルオランテン
- 103. 7, 8, 10-トリ(4'-メトキシフェニル)フルオランテン
- 104. 7, 8, 10-トリ(3'-フルオロフェニル)フルオランテン



11

- ン  
 106. 7, 10-ジフェニル-8-(4'-メトキシフェニル)フルオラン  
 テン  
 107. 7, 10-ジフェニル-8-(4'-クロロフェニル)フルオラン  
 テン  
 108. 7, 10-ジフェニル-8-(4'-フェニルフェニル)フルオラン  
 テン  
 109. 7-フェニル-8, 10-ジ(4'-メチルフェニル)フルオラン  
 テン  
 110. 10-フェニル-7, 8-ジ(3'-メチルフェニル)フルオラン  
 テン  
 111. 10-フェニル-7, 8-ジ(3'-エトキシフェニル)フルオラン  
 テン  
 112. 7, 8, 10-トリフェニル-2-tert-ブチルフルオランテン  
 113. 7, 8, 10-トリフェニル-3-クロロフルオランテン  
 114. 7, 8, 10-トリフェニル-9-エチルフルオランテン  
 115. 7, 8, 10-トリフェニル-9-メトキシフルオランテン  
 116. 7, 8, 10-トリフェニル-9-フルオロフルオランテン  
 117. 7, 10-ジフェニル-8-(4'-エチルフェニル)-9-n-ペ  
 ンチルフルオランテン  
 118. 7, 10-ジフェニル-8-(4'-メチルフェニル)-9-メトキ  
 シフルオランテン  
 119. 7, 10-ジフェニル-8-(2'-メチルフェニル)-9-クロロ  
 フルオランテン  
 120. 10-フェニル-7, 8-ジ(4'-メチルフェニル)-9-メチル  
 フルオランテン

【0019】

121. 3, 4, 7, 10-テトラフェニルフルオランテン  
 122. 3, 7, 8, 10-テトラフェニルフルオランテン  
 123. 7, 8, 9, 10-テトラフェニルフルオランテン  
 124. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ(4'-メチルフェニル)フルオ  
 ランテン  
 125. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ(4'-tert-ブチルフェニル)  
 フルオランテン  
 126. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ(4'-メトキシフェニル)フル  
 オランテン  
 127. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ(3'-フルオロフェニル)フル  
 オランテン  
 128. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ(4'-クロロフェニル)フルオ  
 ランテン  
 129. 7, 10-ジフェニル-8, 9-ジ(1'-ナフチル)フルオラン  
 テン  
 130. 7, 10-ジ(4'-エチルフェニル)-8, 9-ジフェニルフルオ  
 ランテン  
 131. 7, 10-ジ(3', 4'-ジメチルフェニル)-8, 9-ジフェニ  
 ルフルオランテン  
 132. 7, 10-ジ(4'-メトキシフェニル)-8, 9-ジフェニルフル  
 オランテン  
 133. 7, 9, 10-トリフェニル-8-(2', 4'-ジメチルフェニル

- 13  
134. 7, 9, 10-トリフェニル-8-(2'-ナフチル)フルオランテン  
ン  
135. 7, 9, 10-トリフェニル-8-(1', 2', 3', 4'-テト  
ラヒドロ-6'-ナフチル)フルオランテン

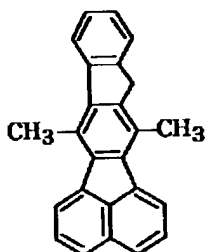
## 【0020】

136. 8, 10-ジフェニル-7, 9-ジ(4'-メチルフェニル)フルオ  
ランテン  
137. 8, 10-ジフェニル-7, 9-ジ(3'-エトキシフェニル)フル  
オランテン  
138. 7, 8, 9, 10-テトラフェニル-3-クロロフルオランテン  
139. 7, 8, 9, 10-テトラフェニル-2-エチルフルオランテン  
140. 7, 8, 9, 10-テトラフェニル-2-メトキシフルオランテン  
141. 3, 7, 8, 9, 10-ペンタフェニルフルオランテン  
142. 3, 4, 7, 8, 9, 10-ヘキサフェニルフルオランテン

さらには、下記式(143)~式(145)(化4~化6)  
143.

## 【0021】

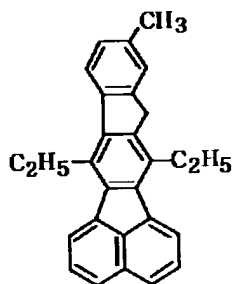
【化4】



144.

## 【0022】

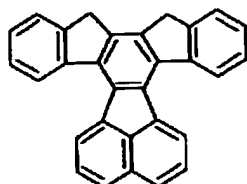
【化5】



145.

## 【0023】

【化6】



【0024】本発明に係る化合物Aは、其自体公知の方法に従って製造することができる。例えば、Ber. Dtsch. Chem. Ges., 71, 774 (1938)、Tetrahedron, 22

\* (1977)、Indian J. Chem. Sect. B, 16B, 152 (1978)、Indian J. Chem. Sect. B, 19B, 750 (1980)、Indian J. Chem. Sect. B, 22B, 225 (1983)、Aust. J. Chem., 21, 2237 (1968)、Curr. Sci., 40, 463 (1971)、Curr. Sci., 45, 254 (1976)、J. Chem. Soc., 1949, 1555、J. Chem. Soc., 1954, 227、J. Amer. Chem. Soc., 90, 566 (1968)、Liebig Ann. Chem., 739, 159 (1970)、J. Amer. Chem. Soc., 115, 11542 (1993)に従って製造することができる。すなわち、例えば、シクロペンタ[a]アセナフチレン-8-オン誘導体とアセチレン誘導体を反応させ、脱一酸化炭素化することにより製造することができる。

【0025】有機電界発光素子は、通常、一对の電極間に、少なくとも1種の発光成分を含有する発光層を少なくとも一層挟持してなるものである。発光層に使用する化合物の正孔注入および正孔輸送、電子注入および電子輸送の各機能レベルを考慮し、所望に応じて、正孔注入輸送成分を含有する正孔注入輸送層または/および電子注入輸送成分を含有する電子注入輸送層を設けることもできる。例えば、発光層に使用する化合物の正孔注入機能、正孔輸送機能または/および電子注入機能、電子輸送機能が良好な場合には、発光層が正孔注入輸送層または/および電子注入輸送層を兼ねた型の素子の構成とすることができる。勿論、場合によっては、正孔注入輸送層および電子注入輸送層の両方の層を設けない型の素子(一層型の素子)の構成とすることもできる。また、正孔注入輸送層、電子注入輸送層および発光層のそれぞれの層は、一層構造であっても多層構造であってもよく、正孔注入輸送層および電子注入輸送層は、それぞれの層において、注入機能を有する層と輸送機能を有する層を別々に設けて構成することもできる。

【0026】本発明の有機電界発光素子において、本発明に係る化合物Aは、正孔注入輸送成分、発光成分または電子注入輸送成分に用いることが好ましく、正孔注入輸送成分または発光成分に用いることがより好ましく、

界発光素子においては、本発明に係る化合物Aは、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。

【0027】本発明の有機電界発光素子の構成としては、特に限定するものではなく、例えば、(A)陽極/正孔注入輸送層/発光層/電子注入輸送層/陰極型素子(図1)、(B)陽極/正孔注入輸送層/発光層/陰極型素子(図2)、(C)陽極/発光層/電子注入輸送層/陰極型素子(図3)、(D)陽極/発光層/陰極型素子(図4)などを挙げることができる。さらには、発光層を電子注入輸送層で挟み込んだ型の素子である(E)

陽極/正孔注入輸送層/電子注入輸送層/発光層/電子注入輸送層/陰極型素子(図5)とすることもできる。

(D)型の素子構成としては、発光成分のみを一層形態で一对の電極間に挟持させた型の素子を包含するものであるが、より好ましくは、例えば、(F)正孔注入輸送成分、発光成分および電子注入輸送成分を混合させた一層形態で一对の電極間に挟持させた型の素子(図6)、

(G)正孔注入輸送成分および発光成分を混合させた一層形態で一对の電極間に挟持させた型の素子(図7)、または(H)発光成分および電子注入輸送成分を混合させた一層形態で一对の電極間に挟持させた型の素子(図8)の形態である。

【0028】本発明の有機電界発光素子は、これらの素子構成に限るものではなく、それぞれの型の素子において、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層を複数層設けたりすることができる。また、それぞれの型の素子において、正孔注入輸送層と発光層との間に、正孔注入輸送成分と発光成分の混合層または/および発光層と電子注入輸送層との間に、発光成分と電子注入輸送成分の混合層を設けることもできる。より好ましい有機電界発光素子の構成は、(A)型素子、(B)型素子、(C)型素子、(E)型素子、(F)型素子、(G)型素子または(H)型素子であり、さらに好ましくは、(A)型素子、(C)型素子、(F)型素子または(H)型素子である。

【0029】本発明の有機電界発光素子としては、例えば、(図1)に示す(A)陽極/正孔注入輸送層/発光層/電子注入輸送層/陰極型素子について説明する。

(図1)において、1は基板、2は陽極、3は正孔注入輸送層、4は発光層、5は電子注入輸送層、6は陰極、7は電源を示す。

【0030】本発明の有機電界発光素子は、基板1に支持されていることが好ましく、基板としては、特に限定するものではないが、透明ないし半透明であることが好ましく、例えば、ガラス板、透明プラスチックシート(例えば、ポリエステル、ポリカーボネート、ポリスルホン、ポリメチルメタクリレート、ポリプロピレン、ポリエチレンなどのシート)、半透明プラスチックシート、石英、透明セラミックスあるいはこれらを組み合わ

らに、基板に、例えば、カラーフィルター膜、色変換膜、誘電体反射膜を組み合わせ、発光色をコントロールすることもできる。

【0031】陽極2としては、比較的仕事関数の大きい金属、合金または電気導性化合物を電極物質として使用することが好ましい。陽極に使用する電極物質としては、例えば、金、白金、銀、銅、コバルト、ニッケル、パラジウム、バナジウム、タングステン、酸化錫、酸化亜鉛、ITO(インジウム・ティン・オキサイド)、ポリチオフェン、ポリピロールなどを挙げることができる。これらの電極物質は、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。陽極は、これらの電極物質を、例えば、蒸着法、スパッタリング法等の方法により、基板の上に形成することができる。また、陽極は一層構造であってもよく、あるいは多層構造であってもよい。陽極のシート電気抵抗は、好ましくは、数百 $\Omega/\square$ 以下、より好ましくは、5~50 $\Omega/\square$ 程度に設定する。陽極の厚みは、使用する電極物質の材料にもよるが、一般に、5~1000nm程度、より好ましくは、10~500nm程度に設定する。

【0032】正孔注入輸送層3は、陽極からの正孔(ホール)の注入を容易にする機能、および注入された正孔を輸送する機能を有する化合物を含有する層である。正孔注入輸送層は、本発明に係る化合物Aおよび/または他の正孔注入輸送機能を有する化合物(例えば、フタロシアニン誘導体、トリアリールメタン誘導体、トリアリールアミン誘導体、オキサゾール誘導体、ヒドラゾン誘導体、スチルベン誘導体、ピラゾリン誘導体、ポリシラン誘導体、ポリフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリ-N-ビニルカルバゾール誘導体など)を少なくとも1種用いて形成することができる。尚、正孔注入輸送機能を有する化合物は、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。

【0033】本発明において用いる他の正孔注入輸送機能を有する化合物としては、トリアリールアミン誘導体(例えば、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(4"-メチルフェニル)アミノ]ビフェニル、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ]ビフェニル、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(3"-メトキシフェニル)アミノ]ビフェニル、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(1"-ナフチル)アミノ]ビフェニル、3,3'-ジメチル-4,4'-ビス[N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ]ビフェニル、1,1'-ビス[4'-[N,N-ジ(4"-メチルフェニル)アミノ]フェニル]シクロヘキサン、9,10-ビス[N-(4'-メチルフェニル)-N-(4"-n-ブチルフェニル)アミノ]フェナントレン、3,8-ビス(N,N-ジフェニルアミ

17

N, N-ビス〔4'', 4'''-ビス〔N', N'-ジ(4-メチルフェニル)アミノ〕ビフェニル-4-イル〕アニリン、N, N'-ビス〔4-(ジフェニルアミノ)フェニル〕-N, N'-ジフェニル-1, 3-ジアミノベンゼン、N, N'-ビス〔4-(ジフェニルアミノ)フェニル〕-N, N'-ジフェニル-1, 4-ジアミノベンゼン、5, 5''-ビス〔4-(ビス〔4-メチルフェニル〕アミノ)フェニル〕-2, 2':5', 2''-ターチオフェン、1, 3, 5-トリス(ジフェニルアミノ)ベンゼン、4, 4', 4''-トリス(N-カルバゾール)トリフェニルアミン、4, 4', 4''-トリス〔N-(3''-メチルフェニル)-N-フェニルアミノ〕トリフェニルアミン、1, 3, 5-トリス〔N-(4'-ジフェニルアミノフェニル)フェニルアミノ〕ベンゼンなど)、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリ-N-ビニルカルバゾール誘導体がより好ましい。本発明に係る化合物Aと他の正孔注入輸送機能を有する化合物を併用する場合、正孔注入輸送層中に占める本発明に係る化合物Aの割合は、好ましくは、0.1~40重量%程度に調製する。

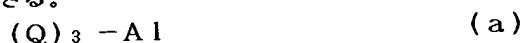
【0034】発光層4は、正孔および電子の注入機能、それらの輸送機能、正孔と電子の再結合により励起子を生成させる機能を有する化合物を含有する層である。発光層は、本発明に係る化合物Aおよび/または他の発光機能を有する蛍光性化合物(例えば、アクリドン誘導体、キナクリドン誘導体、多環芳香族化合物〔例えば、ルブレン、アントラセン、テトラセン、ピレン、ペリレン、クリセン、デカシクロン、コロネン、テトラフェニルシクロペンタジエン、ペンタフェニルシクロペンタジエン、9, 10-ジフェニルアントラセン、9, 10-ビス(フェニルエチニル)アントラセン、1, 4-ビス(9'-エチニルアントラセニル)ベンゼン、4, 4'-bis(9''-エチニルアントラセニル)ビフェニル〕、トリアリールアミン誘導体〔例えば、正孔注入輸送機能を有する化合物として前述した化合物を挙げることができる〕、有機金属錯体〔例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(10-ベンゾ[h]キノリノラート)ベリリウム、2-(2'-ヒドロキシフェニル)ベンゾオキサゾールの亜鉛塩、2-(2'-ヒドロキシフェニル)ベンゾチアゾールの亜鉛塩、4-ヒドロキシアクリジンの亜鉛塩、3-ヒドロキシフラボンの亜鉛塩、5-ヒドロキシフラボンのベリリウム塩、5-ヒドロキシフラボンのアルミニウム塩〕、スチルベン誘導体〔例えば、1, 1, 4, 4-テトラフェニル-1, 3-ブタジエン、4, 4'-bis(2, 2-ジフェニルビニル)ビフェニル〕、クマリン誘導体〔例えば、クマリン1、クマリン6、クマリン7、クマリン30、クマリン106、クマリン138、クマリン151、クマリン152、クマリン153、クマリン307、クマ

18

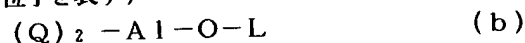
リン338、クマリン343、クマリン500〕、ピラン誘導体〔例えば、DCM1、DCM2〕、オキサゾン誘導体〔例えば、ナイルレッド〕、ベンゾチアゾール誘導体、ベンゾオキサゾール誘導体、ベンゾイミダゾール誘導体、ピラジン誘導体、ケイ皮酸エステル誘導体、ポリ-N-ビニルカルバゾールおよびその誘導体、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリフェニレンおよびその誘導体、ポリフルオレンおよびその誘導体、ポリフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリターフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリナフチレンビニレンおよびその誘導体、ポリチエニレンビニレンおよびその誘導体などを少なくとも1種用いて形成することができる。本発明の有機電界発光素子においては、発光層に本発明に係る化合物Aを含有していることが好ましい。本発明に係る化合物Aと他の発光機能を有する化合物を併用する場合、発光層中に占める本発明に係る化合物Aの割合は、好ましくは、0.001~99.999重量%程度、より好ましくは、0.01~99.99重量%程度、さらに好ましくは、0.1~99.9重量%程度に調製する。

【0035】本発明において用いる他の発光機能を有する化合物としては、発光性有機金属錯体がより好ましい。例えば、J. Appl. Phys., 65, 3610 (1989)、特開平5-214332号公報に記載のように、発光層をホスト化合物とゲスト化合物(ドーパント)とより構成することもできる。本発明に係る化合物Aを、ホスト化合物として用いて発光層を形成することができ、さらに、ゲスト化合物として用いて発光層を形成することもできる。本発明に係る化合物Aを、ゲスト化合物として用いて発光層を形成する場合、ホスト化合物としては、発光性有機金属錯体が好ましい。この場合、発光性有機金属錯体に対して、本発明に係る化合物Aを、好ましくは、0.001~40重量%程度、より好ましくは、0.01~30重量%程度、特に好ましくは、0.1~10重量%程度使用する。

【0036】本発明に係る化合物Aと併用する発光性有機金属錯体としては、特に限定するものではないが、発光性有機アルミニウム錯体が好ましく、置換または未置換の8-キノリノラート配位子を有する発光性有機アルミニウム錯体がより好ましい。好ましい発光性有機金属錯体としては、例えば、一般式(a)~一般式(c)で表される発光性有機アルミニウム錯体を挙げることができる。



(式中、Qは置換または未置換の8-キノリノラート配位子を表す)



(式中、Qは置換8-キノリノラート配位子を表し、O-Lはフェノラート配位子であり、Lはフェニル部分を

(Q)<sub>2</sub>-Al-O-Al-(Q)<sub>2</sub> (c)

(式中、Qは置換8-キノリノラート配位子を表す)

【0037】発光性有機金属錯体の具体例としては、例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(4-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(5-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(3, 4-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(4, 5-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、トリス(4, 6-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(フェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2-メチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(3-メチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(4-メチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2-フェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(3-フェニルフェノラート)アルミニウム、【0038】ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(4-フェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2, 3-ジメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2, 6-ジメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(3, 4-ジメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(3, 5-ジメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(3, 5-ジ-tert-ブチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2, 6-ジフェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2, 4, 6-トリフェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2, 4, 6-トリメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2, 4, 5, 6-テトラメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(1-ナフトラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2-ナフトラート)アルミニウム、ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)(2-フェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)(3-フェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)(4-フェニルフェノラート)アルミニウム、ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)(3, 5-ジメチルフェノラート)アルミニウム、ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)(3, 5-ジ-tert-ブチルフェノラート)アルミニウム、

アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2, 4-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-4-エチル-8-キノリノラート)アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2-メチル-4-エチル-8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-4-メトキシ-8-キノリノラート)アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2-メチル-4-メトキシ-8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-5-シアノ-8-キノリノラート)アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2-メチル-5-シアノ-8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(2-メチル-5-トリフルオロメチル-8-キノリノラート)アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2-メチル-5-トリフルオロメチル-8-キノリノラート)アルミニウムなどを挙げるができる。勿論、発光性有機金属錯体は、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。

【0040】電子注入輸送層5は、陰極からの電子の注入を容易にする機能、そして注入された電子を輸送する機能を有する化合物を含有する層である。電子注入輸送層は、本発明に係る化合物Aおよび/または他の電子注入輸送機能を有する化合物(例えば、有機金属錯体〔例えば、トリス(8-キノリノラート)アルミニウム、ビス(10-ベンゾ[h]キノリノラート)ベリリウム〕、オキサジアゾール誘導体、トリアゾール誘導体、トリアジン誘導体、ペリレン誘導体、キノリン誘導体、キノキサリン誘導体、ジフェニルキノン誘導体、ニトロ置換フルオレノン誘導体、チオピランジオキサイド誘導体など)を少なくとも1種用いて形成することができる。本発明に係る化合物Aと他の電子注入輸送機能を有する化合物を併用する場合、電子注入輸送層中に占める本発明に係る化合物Aの割合は、好ましくは、0.1~40重量%程度に調整する。本発明においては、本発明に係る化合物Aと有機金属錯体〔例えば、前記一般式(a)~一般式(c)で表される化合物)を併用して、電子注入輸送層を形成することは好ましい。

【0041】陰極6としては、比較的仕事関数の小さい金属、合金または電気導性化合物を電極物質として使用することが好ましい。陰極に使用する電極物質としては、例えば、リチウム、リチウム-インジウム合金、ナトリウム、ナトリウム-カリウム合金、カルシウム、マグネシウム、マグネシウム-銀合金、マグネシウム-インジウム合金、インジウム、ルテニウム、チタニウム、マンガン、イットリウム、アルミニウム、アルミニウム-リチウム合金、アルミニウム-カルシウム合金、アルミニウム-マグネシウム合金、グラファイト薄膜等を挙げるができる。これらの電極物質は、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。

## 21

着法、スパッタリング法、イオン化蒸着法、イオンプレーティング法、クラスターイオンビーム法等の方法により、電子注入輸送層の上に形成することができる。また、陰極は一層構造であってもよく、あるいは多層構造であってもよい。尚、陰極のシート電気抵抗は、数百 $\Omega/\square$ 以下に設定するのが好ましい。陰極の厚みは、使用する電極物質の材料にもよるが、一般に、5~1000 nm程度、より好ましくは、10~500 nm程度に設定する。尚、有機電界発光素子の発光を効率よく取り出すために、陽極または陰極の少なくとも一方の電極が、透明ないし半透明であることが好ましく、一般に、発光光の透過率が70%以上となるように陽極の材料、厚みを設定することがより好ましい。

【0043】また、本発明の有機電界発光素子においては、その少なくとも一層中に、一重項酸素クエンチャーが含有されていてもよい。一重項酸素クエンチャーとしては、特に限定するものではなく、例えば、ルブレン、ニッケル錯体、ジフェニルイソベンゾフランなどが挙げられ、特に好ましくは、ルブレンである。一重項酸素クエンチャーが含有されている層としては、特に限定するものではないが、好ましくは、発光層または正孔注入輸送層であり、より好ましくは、正孔注入輸送層である。尚、例えば、正孔注入輸送層に一重項酸素クエンチャーを含有させる場合、正孔注入輸送層中に均一に含有させてもよく、正孔注入輸送層と隣接する層（例えば、発光層、発光機能を有する電子注入輸送層）の近傍に含有させてもよい。一重項酸素クエンチャーの含有量としては、含有される層（例えば、正孔注入輸送層）を構成する全体量の0.01~50重量%、好ましくは、0.05~30重量%、より好ましくは、0.1~20重量%である。

【0044】正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層の形成方法に関しては、特に限定するものではなく、例えば、真空蒸着法、イオン化蒸着法、溶液塗布法（例えば、スピンコート法、キャスト法、ディップコート法、バーコート法、ロールコート法、ラングミュア・プロゼット法など）により薄膜を形成することにより作製することができる。真空蒸着法により、各層を形成する場合、真空蒸着の条件は、特に限定するものではないが、 $10^{-5}$  Torr程度以下の真空下で、50~400℃程度のボート温度（蒸着源温度）、-50~300℃程度の基板温度で、0.005~50 nm/sec程度の蒸着速度で実施することが好ましい。この場合、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層は、真空下で、連続して形成することにより、諸特性に一層優れた有機電界発光素子を製造することができる。真空蒸着法により、正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層等の各層を、複数の化合物を用いて形成する場合、化合物を入れた各ボートを個別に温度制御して、共蒸着することが好

## 22

【0045】溶液塗布法により、各層を形成する場合、各層を形成する成分あるいはその成分とバインダー樹脂等を、溶媒に溶解、または分散させて塗布液とする。正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層の各層に使用しうるバインダー樹脂としては、例えば、ポリ-N-ビニルカルバゾール、ポリアリレート、ポリスチレン、ポリエステル、ポリシロキサン、ポリメチルアクリレート、ポリメチルメタクリレート、ポリエーテル、ポリカーボネート、ポリアミド、ポリイミド、ポリアミドイミド、ポリバラキシレン、ポリエチレン、ポリフェニレンオキサイド、ポリエーテルスルホン、ポリアニリンおよびその誘導体、ポリチオフェンおよびその誘導体、ポリフェニレンビニレンおよびその誘導体、ポリフルオレンおよびその誘導体、ポリチエニレンビニレンおよびその誘導体等の高分子化合物が挙げられる。バインダー樹脂は、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。

【0046】溶液塗布法により、各層を形成する場合、各層を形成する成分あるいはその成分とバインダー樹脂等を、適当な有機溶媒（例えば、ヘキサン、オクタン、デカン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、1-メチルナフタレン等の炭化水素系溶媒、例えば、アセトン、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、シクロヘキサノン等のケトン系溶媒、例えば、ジクロロメタン、クロロホルム、テトラクロロメタン、ジクロロエタン、トリクロロエタン、テトラクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼン、クロロトルエン等のハロゲン化炭化水素系溶媒、例えば、酢酸エチル、酢酸ブチル、酢酸アミル等のエステル系溶媒、例えば、メタノール、プロパノール、ブタノール、ペンタノール、ヘキサノール、シクロヘキサノール、メチルセロソルブ、エチルセロソルブ、エチレングリコール等のアルコール系溶媒、例えば、ジブチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、アニソール等のエーテル系溶媒、例えば、N,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジメチルアセトアミド、1-メチル-2-ピロリドン、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、ジメチルスルフォキシド等の極性溶媒）および/または水に溶解、または分散させて塗布液とし、各種の塗布法により、薄膜を形成することができる。

【0047】尚、分散する方法としては、特に限定するものではないが、例えば、ボールミル、サンドミル、ペイントシェーカー、アトライター、ホモジナイザー等を用いて微粒子状に分散することができる。塗布液の濃度に関しては、特に限定するものではなく、実施する塗布法により、所望の厚みを作製するに適した濃度範囲に設定することができ、一般には、0.1~50重量%程度、好ましくは、1~30重量%程度の溶液濃度である。尚、バインダー樹脂を使用する場合、その使用量に

層を形成する成分に対して（一層型の素子を形成する場合には、各成分の総量に対して）、5～99.9重量%程度、好ましくは、10～99重量%程度、より好ましくは、15～90重量%程度に設定する。

【0048】正孔注入輸送層、発光層、電子注入輸送層の膜厚に関しては、特に限定するものではないが、一般に、5nm～5μm程度に設定することが好ましい。尚、作製した素子に対し、酸素や水分等との接触を防止する目的で、保護層（封止層）を設けたり、また素子を、例えば、パラフィン、流動パラフィン、シリコンオイル、フルオロカーボン油、ゼオライト含有フルオロカーボン油などの不活性物質中に封入して保護することができる。保護層に使用する材料としては、例えば、有機高分子材料（例えば、フッ素化樹脂、エポキシ樹脂、シリコーン樹脂、エポキシシリコーン樹脂、ポリスチレン、ポリエステル、ポリカーボネート、ポリアミド、ポリイミド、ポリアミドイミド、ポリパラキシレン、ポリエチレン、ポリフェニレンオキサイド）、無機材料（例えば、ダイヤモンド薄膜、アモルファスシリカ、電気絶縁性ガラス、金属酸化物、金属窒化物、金属炭素化合物、金属硫化物）、さらには光硬化性樹脂などを挙げることができ、保護層に使用する材料は、単独で使用してもよく、あるいは複数併用してもよい。保護層は、一層構造であってもよく、また多層構造であってもよい。

【0049】また、電極に保護膜として、例えば、金属酸化膜（例えば、酸化アルミニウム膜）、金属フッ化膜を設けることもできる。また、例えば、陽極の表面に、例えば、有機リン化合物、ポリシラン、芳香族アミン誘導体、フタロシアン誘導体から成る界面層（中間層）を設けることもできる。さらに、電極、例えば、陽極はその表面を、例えば、酸、アンモニア／過酸化水素、あるいはプラズマで処理して使用することもできる。

【0050】本発明の有機電界発光素子は、一般に、直流駆動型の素子として使用されるが、パルス駆動型または交流駆動型の素子としても使用することができる。尚、印加電圧は、一般に、2～30V程度である。本発明の有機電界発光素子は、例えば、パネル型光源、各種の発光素子、各種の表示素子、各種の標識、各種のセンサーなどに使用することができる。

#### 【0051】

【実施例】以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明するが、勿論、本発明はこれらに限定されるものではない。

#### 実施例1

厚さ200nmのITO透明電極（陽極）を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV／オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$ Torrに減圧した。ま

ル $N-(3''\text{-メチルフェニル})$ アミノ〕ビフェニルを、蒸着速度0.2nm/secで75nmの厚さに蒸着し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、ビス（2-メチル-8-キノリノラート）（4-フェニルフェノラート）アルミニウムと7-メチルフルオランテン（例示化合物番号8の化合物）を、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに共蒸着（重量比100:0.5）し、発光層とした。次に、トリス（8-キノリノラート）アルミニウムを、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着（重量比10:1）して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、55mA/cm<sup>2</sup>の電流が流れた。輝度2250cd/m<sup>2</sup>の青色の発光が確認された。

#### 【0052】実施例2～26

20 実施例1において、発光層の形成に際して、例示化合物番号8の化合物を使用する代わりに、例示化合物番号11の化合物（実施例2）、例示化合物番号24の化合物（実施例3）、例示化合物番号29の化合物（実施例4）、例示化合物番号31の化合物（実施例5）、例示化合物番号35の化合物（実施例6）、例示化合物番号39の化合物（実施例7）、例示化合物番号46の化合物（実施例8）、例示化合物番号53の化合物（実施例9）、例示化合物番号66の化合物（実施例10）、例示化合物番号72の化合物（実施例11）、例示化合物番号75の化合物（実施例12）、例示化合物番号77の化合物（実施例13）、例示化合物番号82の化合物（実施例14）、例示化合物番号84の化合物（実施例15）、例示化合物番号91の化合物（実施例16）、例示化合物番号97の化合物（実施例17）、例示化合物番号100の化合物（実施例18）、例示化合物番号104の化合物（実施例19）、例示化合物番号111の化合物（実施例20）、例示化合物番号113の化合物（実施例21）、例示化合物番号117の化合物（実施例22）、例示化合物番号123の化合物（実施例23）、例示化合物番号141の化合物（実施例24）、例示化合物番号143の化合物（実施例25）、例示化合物番号145の化合物（実施例26）を使用した以外は、実施例1に記載の方法により有機電界発光素子を作製した。それぞれの素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、青色～緑の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を第1表（表1、2）に示した。

#### 【0053】比較例1

実施例1において、発光層の形成に際して、例示化合物

25

キノリノラート) (4-フェニルフェノラート) アルミニウムだけを用いて、50nmの厚さに蒸着し、発光層とした以外は、実施例1に記載の方法により有機電界発光素子を作製した。この素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、青色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を第1表(表2)に示した。

## 【0054】比較例2

実施例1において、発光層の形成に際して、例示化合物\*

26

\*番号8の化合物を使用する代わりに、N-メチル-2-メトキシアクリドンを使用した以外は、実施例1に記載の方法により有機電界発光素子を作製した。この素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、青色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を第1表(表2)に示した。

【0055】

【表1】

第1表

有機電界 発光素子	輝度 (cd/m <sup>2</sup> )	電流密度 (mA/cm <sup>2</sup> )
実施例2	2270	56
実施例3	2250	52
実施例4	2230	53
実施例5	2180	56
実施例6	2240	54
実施例7	2210	53
実施例8	2180	56
実施例9	2160	54
実施例10	2260	52
実施例11	2230	55
実施例12	2250	54
実施例13	2230	55
実施例14	2220	55
実施例15	2260	52
実施例16	2280	54
実施例17	2300	56
実施例18	2270	53

【0056】

※ ※【表2】



第1表 (続き)

有機電界 発光素子	輝度 ( $\text{cd}/\text{m}^2$ )	電流密度 ( $\text{mA}/\text{cm}^2$ )
実施例19	2260	52
実施例20	2230	53
実施例21	2240	55
実施例22	2250	53
実施例23	2280	56
実施例24	2230	54
実施例25	2230	53
実施例26	2240	55
比較例1	1170	82
比較例2	1550	74

## 【0057】実施例27

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$ Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、4,4'-ビス〔N-フェニル-N-(3'-メチルフェニル)アミノ〕ビフェニルを、蒸着速度0.2nm/secで75nmの厚さに蒸着し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(2-フェニルフェノラート)アルミニウムと例示化合物番号124の化合物を、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに共蒸着(重量比100:1.0)し、発光層とした。次に、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムを、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、 $58\text{mA}/\text{cm}^2$ の電流が流れた。輝度270 $\text{cd}/\text{m}^2$ の青色の発光が確認された。

## 【0058】実施例28

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$ Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、4,4'-ビス〔N-フェニル-N-(3'-メチルフェニル)アミノ〕ビフェニル

\*し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム- $\mu$ -オキソ-ビス(2-メチル-8-キノリノラート)アルミニウムと例示化合物番号131の化合物を、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに共蒸着(重量比100:2.0)し、発光層とした。次に、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムを、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、 $57\text{mA}/\text{cm}^2$ の電流が流れた。輝度2320 $\text{cd}/\text{m}^2$ の青色の発光が確認された。

## 【0059】実施例29

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$ Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、4,4'-ビス〔N-フェニル-N-(3'-メチルフェニル)アミノ〕ビフェニルを、蒸着速度0.2nm/secで75nmの厚さに蒸着し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、ビス(2,4-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウム- $\mu$ -オキソ-ビス(2,4-ジメチル-8-キノリノラート)アルミニウムと例示化合物番号108の化合物を、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに共蒸着(重量比100:4.0)し、発光層とした。次に、トリス(8-キノリノラート)ア

厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2 nm/sec で200 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、12 Vの直流電圧を印加したところ、60 mA/cm<sup>2</sup>の電流が流れた。輝度2130 cd/m<sup>2</sup>の青色の発光が確認された。

#### 【0060】実施例30

厚さ200 nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ]ビフェニルを、蒸着速度0.2 nm/sec で75 nmの厚さに蒸着し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)(4-フェニルフェノラート)アルミニウムと例示化合物番号134の化合物を、異なる蒸着源から、蒸着速度0.2 nm/sec で50 nmの厚さに共蒸着(重量比100:1.0)し、発光層とした。次に、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムを、蒸着速度0.2 nm/sec で50 nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2 nm/sec で200 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、12 Vの直流電圧を印加したところ、58 mA/cm<sup>2</sup>の電流が流れた。輝度1970 cd/m<sup>2</sup>の青色の発光が確認された。

#### 【0061】実施例31

厚さ200 nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、4,4'-ビス[N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ]ビフェニルを、蒸着速度0.2 nm/sec で75 nmの厚さに蒸着し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、例示化合物番号126の化合物を、蒸着速度0.2 nm/sec で50 nmの厚さに蒸着し、発光層とした。次いで、その上に、1,3-ビス[5'-(p-tert-ブチルフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2'-イル]ベンゼンを、蒸着速度0.2 nm/sec で50 nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2 nm/sec で20

し、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、14 Vの直流電圧を印加したところ、48 mA/cm<sup>2</sup>の電流が流れた。輝度1740 cd/m<sup>2</sup>の青色の発光が確認された。

#### 【0062】実施例32

厚さ200 nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、例示化合物番号136の化合物を、蒸着速度0.2 nm/sec で55 nmの厚さに蒸着し、発光層とした。次いで、その上に、1,3-ビス[5'-(p-tert-ブチルフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2'-イル]ベンゼンを、蒸着速度0.2 nm/sec で75 nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2 nm/sec で200 nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、15 Vの直流電圧を印加したところ、68 mA/cm<sup>2</sup>の電流が流れた。輝度1150 cd/m<sup>2</sup>の青色の発光が確認された。

#### 【0063】実施例33

厚さ200 nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した。次に、ITO透明電極上に、ポリ-N-ビニルカルバゾール(重量平均分子量150000)、例示化合物番号6の化合物、クマリン6["3-(2'-ベンゾチアゾリル)-7-ジエチルアミノクマリン"(緑色の発光成分)]、およびDCM1["4-(ジシアノメチレン)-2-メチル-6-(4'-ジメチルアミノスチリル)-4H-ピラン"(オレンジ色の発光成分)]を、それぞれ重量比100:5:3:2の割合で含有する3重量%ジクロロエタン溶液を用いて、ディップコート法により、400 nmの発光層を形成した。次に、この発光層を有するガラス基板を、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}$  Torrに減圧した。さらに、発光層の上に、3-(4'-tert-ブチルフェニル)-4-フェニル-5-(4"-ビフェニル)-1,2,4-トリアゾールを、蒸着速度0.2 nm/sec で20 nmの厚さに蒸着した後、さらにその上に、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムを、蒸着速度0.2 nm/sec で30 nmの厚さに蒸着し電子注入輸送層とした。さらにその上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2 nm/sec

## 31

極とし、有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、12Vの直流電圧を印加したところ、 $74\text{ mA/cm}^2$  の電流が流れた。輝度 $1020\text{ cd/m}^2$  の白色の発光が確認された。

## 【0064】実施例34

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した。次に、ITO透明電極上に、ポリ-N-ビニルカルバゾール(重量平均分子量150000)、1,3-ビス[5'-(p-tert-ブチルフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2'-イル]ベンゼンおよび例示化合物番号42の化合物を、それぞれ重量比100:30:3の割合で含有する3重量%ジクロロエタン溶液を用いて、ディップコート法により、300nmの発光層を形成した。次に、この発光層を有するガラス基板を、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}\text{ Torr}$ に減圧した。さらに、発光層の上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、15Vの直流電圧を印加したところ、 $76\text{ mA/cm}^2$  の電流が流れた。輝度 $1120\text{ cd/m}^2$  の青色の発光が確認された。

## 【0065】比較例3

実施例34において、発光層の形成に際して、例示化合物番号42の化合物の代わりに、1,1,4,4-テトラフェニル-1,3-ブタジエンを使用した以外は、実施例34に記載の方法により有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、15Vの直流電圧を印加したところ、 $86\text{ mA/cm}^2$  の電流が流れた。輝度 $680\text{ cd/m}^2$  の青色の発光が確認された。

## 【0066】実施例35

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した。次に、ITO透明電極上に、ポリカーボネート(重量平均分子量50000)、

## 32

4,4'-ビス[N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ]ビフェニル、ビス(2-メチル-8-キノリノラート)アルミニウム-μ-オキソ-ビス(2-メチル-8-キノリノラート)アルミニウムおよび例示化合物番号73の化合物を、それぞれ重量比100:40:60:1の割合で含有する3重量%ジクロロエタン溶液を用いて、ディップコート法により、300nmの発光層を形成した。次に、この発光層を有するガラス基板を、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を $3 \times 10^{-6}\text{ Torr}$ に減圧した。さらに、発光層の上に、マグネシウムと銀を、蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。作製した有機電界発光素子に、乾燥雰囲気下、15Vの直流電圧を印加したところ、 $66\text{ mA/cm}^2$  の電流が流れた。輝度 $750\text{ cd/m}^2$  の青色の発光が確認された。

## 【0067】

【発明の効果】本発明により、発光輝度が優れた有機電界発光素子を提供することが可能になった。

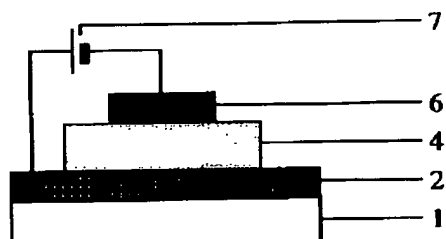
## 【図面の簡単な説明】

【図1】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図2】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図3】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図4】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図5】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図6】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図7】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。  
 【図8】有機電界発光素子の一例の概略構造図である。

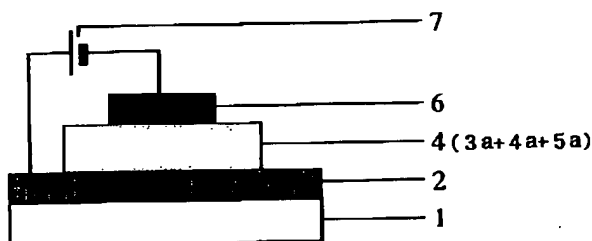
## 【符号の説明】

- 1 基板
- 2 陽極
- 3 正孔注入輸送層
- 3a 正孔注入輸送成分
- 4 発光層
- 4a 発光成分
- 5 電子注入輸送層
- 5" 電子注入輸送層
- 5a 電子注入輸送成分
- 6 陰極
- 7 電源

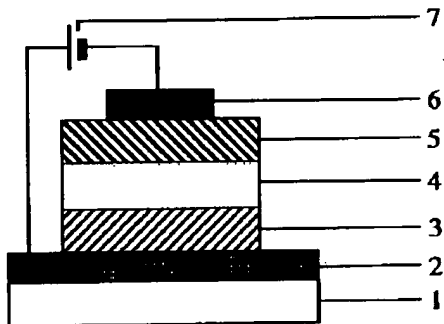
【図4】



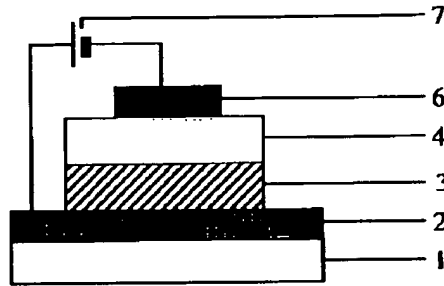
【図6】



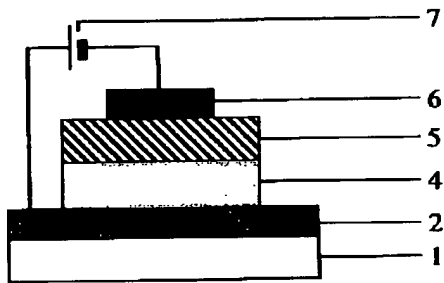
【図1】



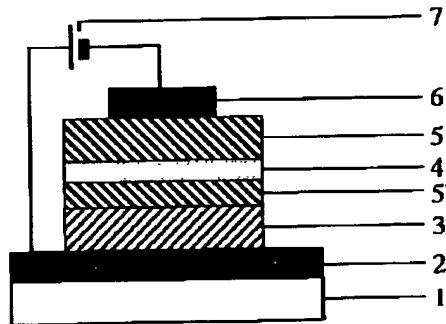
【図2】



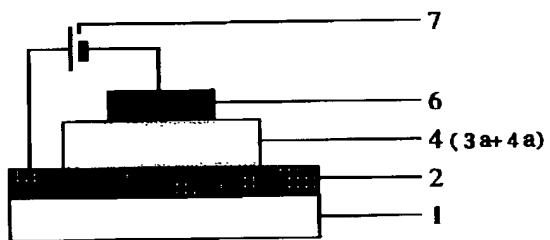
【図3】



【図5】



【図7】



【図8】

